東京農業大学

世田谷キャンパス

緊急時対応
事前確認用マニュアル

学生用

東京農業大学

学 生 の 行 動 規 範

学生は、以下のことを遵守しなければならない。

1. 本学の学生として本学の規則に従うこと。

2. 最高学府の学生としての自覚を持ち、学業ならびにそれぞれの所属する団体の活動に精励すること。

3. 本学の名誉・信用を傷つける行為をしないこと。

4. 公序良俗を乱す行為、人権を侵害するような行為やハラスメントをしないこと。

上記 3 および 4 の行為が起きないように防止に努めるだけでなく、もしこのような事実が認められた場合は、直ちに担当の教職員に報告し、適切な措置をとらなければならない。

迷 惑 行 為 の 相 談 窓 口

世田谷キャンパス

学生課

電話番号 03-5477-2228
メールアドレス gakusei@nodai.ac.jp

※個人情報の取り扱いには、注意すること。
※ハラスメントを受けた場合は「ハラスメントは差別、人権侵害です」のパンフレットを参照し、メールまたは相談員等へ相談すること。

緊 急 連 絡

■ 世田谷キャンパス内での緊急連絡

火災発生 ▸▸▸▸

1.「火事だ！」と大声で知らせる
2. 近くの火災報知器のボタンを押す
3. 消火器で消火する（危険な場合は避難）
4. 避難・負傷者の救護をする
5. 消防（119）に通報
6. 警備本部に連絡
   内線 5555・直通 03-3426-6087

【研究室活動・課外活動中】
7. 担当教員、部長、顧問に通報（現場へ急行）
8. 学生課へ通報

救急・事故発生 ▸▸▸▸

1. 避難・負傷者の救護をする
   学生課に連絡
   内線 2331・直通 03-5477-2228
2. 飲酒事故の場合→飲酒事故の応急対応参照
   救急（119）に通報
3. 警備本部に連絡
   内線 5555・直通 03-3426-6087

【研究室活動・課外活動中】
4. 担当教員、部長、顧問に通報（現場へ急行）
5. 教職員から健康増進センターへ通報

【救急搬送する場合】
1. 付き添い者を同乗させる
2. 病院決定後、家族に連絡する
3. 連絡を受けた担当教職員は、病院に急行する

■ 学外での緊急連絡

救急・事故発生 ▸▸▸▸

発見者

【確認事項】
1. 日時
2. 場所
3. 事故等内容
4. 氏名・学年
   学籍番号

救急（119 番）通報
または、
病院へ各団体で搬送

【救急搬送をする場合】
1. 付き添い者を同乗させる
2. 病院決定後、家族に連絡する
3. 連絡を受けた担当教職員は
   病院に急行する

【平日】 学生課に報告
TEL.03-5477-2228

【夜間・休日】 警備本部
TEL.03-3426-6087

※施設利用の際は、その施設の緊急対応方法を事前に確認し、その指示にしたがうこと。

救 急 法

■ 倒れた人を見かけた場合の救命手当

英語の冠をとった「ABC」を行いつつ、救急車を要請、さらにAED（自動体外式除細動器）を用いる。

A（エアウェイ：気道を確保）

B（ブレッシング：呼吸の確保）

C（サーキュレーション：循環の確保）

【AED 学内設置場所】

☆ 健康増進センター
☆ 警備室　☆ 農大アカデミアセンター 3F
☆ 1 号館 1F、3F、5F　☆ 2 号館 1F
☆ 桜丘アリーナ 1F、2F　☆ 常磐松会館本館 1F
☆ 常磐松会館道場 1F　☆ 桜丘寮・若草寮
☆ 青雲寮・育英寮　☆ 常磐寮
☆ 18 号館 1F　☆ グリーンアカデミーホール 1F

大声で助けを求め、119番通報とAED搬送を依頼し、呼吸の確認をしてから、以下の心肺蘇生法を行う。AEDが到着したら使用する。AEDは電源を入れると自動的に解説してくれるので、それに従ってあわてずに行う。事前に、学内および課外活動等における大会・練習会場では、AEDがどこに設置されているのか事前に確認しておこう。

また、できるだけAEDの講習会(普通救命講習会)に参加し、学習しておこう。

● 心肺蘇生法 (C.P.R) の ABC ●

C:Circulation

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを繰り返す。圧迫は強く（約5cm沈むまで）、早く(約100～120回/分)、絶え間なく行う。

1 心臓マッサージ

A:Airway

片手を額にあて、もう一方の手の人差し指と中指の2本をあご先（おとがい部）にあて、持ち上げる。

2 気道確保

B:Breathing

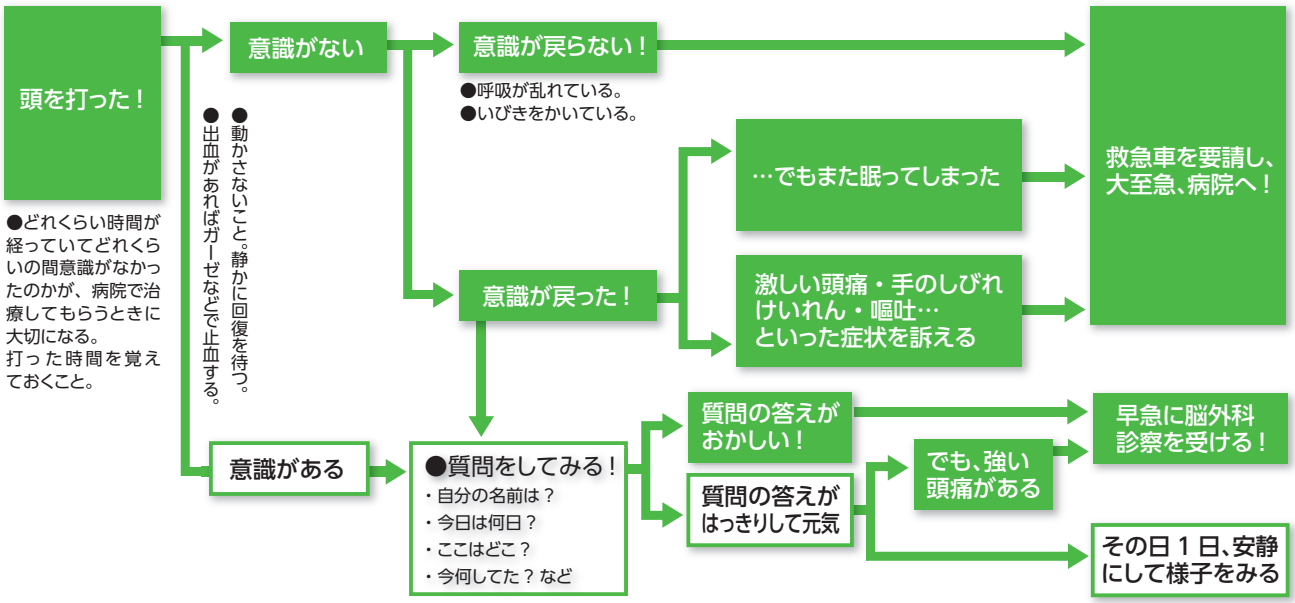
呼吸の確認を行い、呼吸をしていない時は小鼻をつまんで息を吹き込み、人工呼吸2回(省略可能)行う。

3 人工呼吸

〈感染防護具使用〉

■ 頭を打ったときの応急手当

出血がある場合には、清潔なガーゼや布で止血する。意識の有無によって、判断は異なるが、緊急（救急車）を要する場合もあるので、事前に、その対処法を理解しておこう。



■ 頻度の高い傷害の応急処置「突き指、捻挫、骨折、脱臼」

英語の冠をとった「RICE」を行う。

R（レスト：休む）
I（アイシング：冷やす）
C（コンプレッション：圧迫する）
E（エレベーション：高く上げる）

日本語の冠をとった「あれやった」を行う。

あ（圧迫）
れ（冷却）
や（休む）
た（高く上げる）

さらに、骨折時にはあて木（部位により、あて木の大きさを工夫）で固定を、脱臼時（関節がはずれる）には、グラつかないように三角巾や包帯、布で固定し、病院（整形外科）へ行く。

R Rest:安静

ケガの悪化を防ぐため、動き回らないようにする。

I Icing:冷却

氷水などで冷やす。痛みを軽くし、内出血を防いで炎症をおさえる。

C Compression:圧迫

包帯やテーピングでおさえて出血と腫れを防ぐ。

E Elevation:高く上げる

ケガをした部分を心臓より高く上げることで内出血を防ぎ、痛みを軽くすることができる。

■ 実験中に起こりやすい事故の応急処置

1.目に化学物質が入った（薬品によっては失明する可能性あり）

① すぐにゆるやかな流水（水道水）で、15分以上洗浄する。
② まぶたも十分に洗浄する。
③ 痛みで目が開けられない場合は、軽くまぶたを押し上げて目を開ける。
④ コンタクトレンズの場合は、無理矢理取ったりしない。
自然に取れた場合は、捨てずに病院に持参する。
⑤ 洗った後は清潔なハンカチ・タオルをあて、早めに眼科に行くこと。

2.目を打撲した

① 清潔な布で冷湿布をする。痛み、充血、かすみ等の異常を感じたときには、眼科医の診察を受けること。
② 周辺部もケガをしているときには、一般のケガの応急処置をする。
ただし薬品が目に入らないように十分に注意すること。

3.やけど・化学物質が皮膚に触れた

① 速やかに、流水（水道水）で痛みが感じなくなるまで（15分程度）冷やすこと。
② やけどの部分に水疱ができることがあるが、破らないようにする。また、衣服を着けたままやけどをしたときは、衣服を脱がすと水疱が破れることがあるので、衣服を着けたまま冷やす。
③ やけどの応急手当として感染しないよう、清潔に保つようにする。
④ 顔、頭、関節や手のひら部分のやけど、広範囲のやけど、やけど部分が黒または白くなっている場合は、大至急病院へ。

※化学物質による事故が起きたら、健康増進センターへ連絡すること。

■ 熱中症時の応急処置

水分の補給と体温を低下させることが大事。
意識がはっきりしない、なかなか回復しないようなら、救急病院へ搬送する。

熱中症かもしれない、と思ったらまず真っ先にしなければならないこと。

- **涼しい日陰やクーラーの効いた室内などに移動する。**
- **できるだけ風にあてるようにする。**
- **衣類をゆるめて休む。**
- **経口補水液を少しずつ飲ませる。**
- **ぬれタオルをあててあおぐ。**
- **氷や冷たい水でぬらしたタオルを首、わきの下、足のつけねにあてる。**

氷や冷たい水がない場合は、タオルやうちわ、衣服などを使ってあおぎ、風を送って冷やす。

※経口補水液とは、水に塩分と糖分を一定の割合で配合した飲料。
スポーツドリンクに比べ、塩分（電解質）を多く含むため回復に効果あり。

■ 飲酒事故の応急対応

● **酔いつぶれてしまった人がいたら**

① 絶対に一人にせず最後まで介抱する。
② 意識があるか確認し、衣服を緩め、楽にする。
③ 体温の低下を防ぐため、毛布等があれば掛ける。
④ 嘔吐することを想定して、横向き（右下）にする。水やお茶を近くに用意しておく。
⑤ 担当教職員に連絡する。

● **救急車を要請するときの判断は**

① 大きないびきをかいており、声をかけても反応がない。強くつねっても全く反応がない。
② 寒気を感じて震えている。全身が冷たく感じられ、唇が変色している。
③ 口から泡をふいている。
④ 呼吸が異常に早かったり、遅かったり。時々弱くなったりしている。
⑤ 嘔吐したときに大量の血も一緒に吐いた。

★必ず担当教職員と大学警備本部（03-3426-6087）に連絡すること。

飲酒心得

① 「酔いつぶれる人をださない」「酔いつぶれるまで飲まない、飲ませない」
② 「未成年者は飲まない。飲ませない」
③ 「一気飲み等、はやし立てて飲ませない、調子にのって飲まない」
④ 飲酒しての自動車の運転は、言語道断。自転車にも乗らない。

大地震対応

いざ地震のときには 大地震から自分を守る

地震が発生したら

火・ガス・電気を消す	火の始末、ガスの元栓を閉め、電気器具の電源を切る。安全な場所に避難し、出火があればその後消火活動をする。
かぶる、もぐる	頭部を覆い、イス、テーブル、机、ベッド、布団などにもぐる。
開ける、離れる	揺れが激しい場合は、閉じこめられないように、ドアや窓を開け、逃げる出口を確保する。落下・転倒する物から離れる。

キャンパスにいるとき

- 揺れを感じたら実験を中止
- ガスの元栓OFF、電気器具の電源OFF
- 出口の確保
- 落下物・転倒物・飛散ガラスに注意
- 机の下にもぐる
- 野球場・グラウンド・広場に速やかに避難

キャンパス以外にいるとき

- 建物倒壊に注意
- 駅・電車内アナウンスに注意
- 地下鉄内・地下街では放送に注意
- 冷静に行動し、身勝手な言動はしない

避難するとき・避難したら

- 「あわてず」「騒がず」「落ち着いて」
- 余震に注意
- 「押さず」「走らず」「しゃべらず」
- パニックにならない
- 出入り口に殺到しない

火災が発生したら

- 速やかに通報…警備本部（室）へ…
- 初期消火
- 逃げる

非常口と避難路の確認

- あわてないよう事前に通路や出口を確認
- 書棚・薬品庫などの転倒防止
- 障害物の排除

救護・救出

- 自分の存在を知らせる
- 救助・救護・捜索に協力
- 二次災害に注意
- 大声を出して助けを呼ぶ

帰宅するか大学に残るか

- 帰宅の目安は20km以内
- 帰宅できない場合は、大学か最寄の避難所へ
- 日頃から帰宅ルートの確認
- 親との連絡方法を決めておく

家族に安否を知らせる

※ NTT災害伝言ダイヤル(171番:忘れてイナイ)の利用を家族と打ち合わせておく。
※ 携帯電話各社で提供する災害伝言板サービスの利用を家族と打ち合わせておく。

火災発生時の消火器の使い方

1. 消火器を障害物にぶつけたりしないよう注意しながら、火災の起きている場所近くの消火に安全な場所まで運ぶ。
2. 安全ピンに指をかけ、上に引き抜く。

3. ホースをはずして火元に向ける。

4. レバーを強く握って噴射する。

5. 火の根元をねらい、手前からほうきで掃くように薬剤を放射する。

緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておくと便利な物

- ☐ 現金（小銭も）
- ☐ 健康保険証
- ☐ タオル・ばんそうこう・包帯
- ☐ 手回し充電ラジオ・ライト
- ☐ ティッシュ・ウエットティッシュ
- ☐ 非常用保温アルミシート
- ☐ チョコレート・あめなど
- ☐ 身分証明書（免許証など）
- ☐ アドレス帳（家族、友人の連絡先を記入）
- ☐ 雨具（カッパなど）
- ☐ 携帯充電用 USB ケーブル
- ☐ ポリエチレン製ごみ袋
- ☐ 油性マジックペン

その他非常時に必要なアイテム

- ☐ 貯金通帳
- ☐ 常用薬とその処方箋
- ☐ 運動靴
- ☐ 卓上コンロ
- ☐ ひも・ロープ
- ☐ 予備電池
- ☐ スリッパ
- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ 印鑑
- ☐ 上着・下着・靴下
- ☐ リュック
- ☐ 懐中電灯
- ☐ ろうそく
- ☐ 缶切り・栓抜き
- ☐ 洗面用具
- ☐ 非常用食料・水

その他メモ